

# シリーズ「GSJ 筑波移転」について

GSJ 地質ニュース編集委員会<sup>1)</sup>

産業技術総合研究所地質調査総合センターは、幾度か組織を変えながら 1882(明治 15)年に当時の農商務省内に設置されて以来、地質の調査をミッションの柱として地球科学の発展に貢献してきました。1982(昭和 57)年に刊行された『地質調査所百年史』(地質調査所百年史編集委員会, 1982)には、黎明期から筑波移転までの地質調査所の変遷が整理されています。第 1 表に簡単な組織の変遷を示しました。1979(昭和 54)年の筑波移転から約 40 年がたち、移転直後に採用された方々の多くが定年退職される年頃となって、所内にも当時のことを知る者がほとんどいなくなりました。そこで、編集委員会では GSJ にとって筑波移転とはどのような出来事だったのか、あらためて当時を振り返る連載を企画しました。

なお、本シリーズでは、旧地質調査所、および旧地質調査所を主体とした現在の組織である地質調査総合センターを指す言葉として、GSJ(Geological Survey of Japan)という名称を使用しています。GS は国によって様々な組織形態がありますが、だいたい各国に 1 機関ずつ National Center として設置されています。

さて、産業技術総合研究所地質調査総合センターの前身である通商産業省工業技術院地質調査所は、1979 年にそれまでの川崎市溝の口と新宿区河田町の庁舎から現在の場所へ移ってきました(第 1 図, 第 2 図)。都心から直線距離で約 50 km 離れた、できたばかりの筑波学園都市への移転は、職員の生活環境だけでなく研究環境にも大きな影響を与えたはずで

では、そもそもなぜ地質調査所が筑波に移転することになったのか、それは 1950 年代にさかのぼります。当時問題となっていた東京への過度の人口集中を解決するため、機能上必ずしも東京市街地にある必要のない官庁(国立機関)を集団移転させようという気運が高まり、1961 年に「官庁の移転について」という閣議決定がなされました(第 1 図)。ちょうどその頃、通商産業省工業技術院では首都圏に点在する傘下の試験所や研究所が老朽化等によって環境が悪化してきたことを解消すべく、施設をまとめて建て替える計画(研究団地化計画)を進めており、これが移転計画に合流した形になりました。

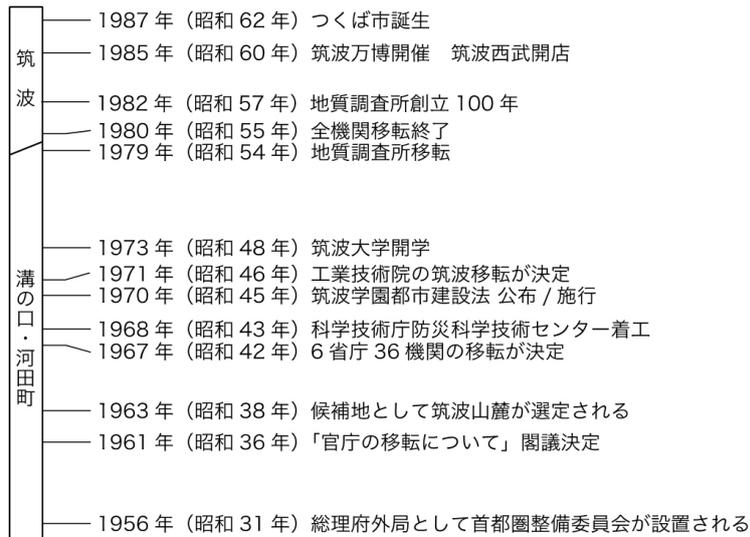
GSJ 地質ニュースの前身である地質ニュースのその頃の号を見ると、当時の地質調査所固有の事情も見えてきます。当時、地質調査所の庁舎は川崎市溝の口と新宿区河田町の 2 カ所に分かれていて業務に不都合が生じており(第 2 図)、庁舎の一本化が強く求められていたところでした(筑波計画本部研究環境対策室, 1974)。溝の口庁舎にあった資料室(図書・資料部門)では終戦後精力的に収集した資料の整理が喫緊の課題となっており、筑波移転による書庫の拡充、地図室の新設は念願でした(資料室, 1979)。移転 5 年前の 1974 年には海洋地質部が新設されており、同年に金属鉱業事業団(当時)の地質調査船「白嶺丸」が就航したことによる海洋関係の業務拡大が見込まれることから、海洋地質試料処理のための実験棟を新設することも

第 1 表 『地質調査所百年史』より抜粋並びに加筆

2017	船橋庁舎廃止
2015	国立研究開発法人 産業技術総合研究所地質調査総合センターとなる
2005	大阪地域地質センター廃止
2001	独立行政法人 産業技術総合研究所地質調査総合センターとなる 北海道支所廃止
2000	工業技術院廃止
1995	九州地域地質センター廃止
1992	中国四国地域地質センター廃止
1988	東北出張所, 名古屋出張所廃止 近畿中部(のちに大阪), 中国四国, 九州の 3 地域地質センターに改組
1985	四国出張所廃止
1981	船橋庁舎竣工
1980	地質標本館開館
1979	筑波研究学園都市に庁舎移転
1976	筑波計画室設置
1971	筑波移転決定
1952	工業技術院設置 その傘下に入る
1948	北海道支所設置
1946	川崎市溝の口に庁舎移転
1945	軍需省廃止 商工省に復帰
1943	軍需省に所属
1929	京橋区木挽町に庁舎復旧
1925	商工省に所属
1923	関東大震災で庁舎消失
1911	鉱物陳列館開館
1906	京橋区木挽町に移転
1886	麹町に移転
1882	地質調査所設立(農商務省所属; 赤坂)

1) 産総研地質調査総合センター

キーワード: 工業技術院, 地質調査所, 河田町, 溝の口, 筑波, つくば, 移転



第1図 GSJ 筑波移転に関する年表



第2図 移転前後の庁舎の位置。A 溝の口, B 河田町, C 筑波。

当初から計画に入っていました(筑波計画室, 1979b)。また長年の希望であった地質標本館の建設も筑波移転の際に実現しています(企画室, 1980)。

このように当時の所内では筑波移転は非常に前向きに受け止められていたようで、記事からも新天地への意気込みが伝わってきます(筑波計画本部研究環境対策室, 1974; 筑波計画室, 1977, 1979a, 1979b; 猪木, 1979; 資料室, 1979; 企画室, 1980など)。これらの後日談として

読んでいただければと思います。

今後連載企画を進める上で、当時を知る関係者の方からのご投稿も受け付けておりますので、よろしく願いいたします。

### 文献

地質調査所百年史編集委員会(1982) 地質調査所百年史。地質調査所, 162p.

企画室(1980) 標本館の展示計画。地質ニュース, no.308, 20-31.

猪木幸男(1979) 地質部地質標本課の発足。地質ニュース, no.304, 53.

筑波計画室(1977) 地質調査所研究本館の施設計画および建設状況。地質ニュース, no.279, 1-13.

筑波計画室(1979a) 研究本館の建設状況。地質ニュース, no.293, 1-10.

筑波計画室(1979b) 実験棟の施設計画。地質ニュース, no.298, 18-28.

筑波計画本部研究環境対策室(1974) 筑波研究学園都市に建設される地質調査所。地質ニュース, no.239, 1-12.

資料室(1979) 筑波移転と資料室。地質ニュース, no.303, 16-28.

GSJ Chishitsu News Editorial Board (2018) The introduction of a serial reading on GSJ's historical transfer to Tsukuba.

(受付:2018年2月22日)